

医師確保と地域への均衡ある医師配置について

東 北 部 会 提 出

地域における医師不足は、日常の診療体制に加え、緊急時の医療体制に大きな影響を来し、特に地域医療の中核的役割を担う公立病院等においては、病院経営の存続までもが危惧される現状にあります。また、医師の偏在は、地域医療構想に示されたように、結果的に多くの地域住民が遠くの都市部の病院を受診せざるをえない状況を招き、患者流出・患者減少に拍車をかけ、最低限の医療体制の確保さえままならない状況を生んでいます。

こうした地域の医師不足の大きな要因は医師養成の制度にあると考えられ、医師数を増やすことのみならず地方への配置が確実となる制度が必要です。

また、医療の公共性に鑑み、医師偏在の解消に向けて、地域で養成した医師から、地域が必要とする医療に従事してもらえる仕組みをさらに拡充することが必要であり、地方の勤務医を増やす、そして、地方の開業医を増やすためのより実効性のある制度の創出が望まれています。

については、地域における医師不足という危機的状況を打開し、地域医療を確保するため、次の事項について特段の措置を講じられるよう要望します。

記

- 1 命を守る緊急の課題として医師養成を図るとともに、医師偏在をなくし、全国均等な専門医の配置など医療提供体制の整備について、実効性のある制度を創設すること。
- 2 関係機関等の連携のもと、地方の医療機関への勤務医の配置に関する調整機能を果たすとともに、医師の地域偏在を是正すること。
- 3 地域住民に良質な医療を効果的かつ持続的に提供するため、地方における医師をはじめとした医療人材確保対策を講じること。